

長崎市提案型協働事業 平成 24 年度実施事業 評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	(特非)新現役の会長崎センター	担当課名	市民協働推進室
事業名	団塊シニア世代セカンドデビュー応援事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	B
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	A
総括		A	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている

B…優れている

C…どちらともいえない

D…どちらかといえば不十分である

E…不十分である

◆審査会コメント

重要な地域課題に対し、団体と行政がコミュニケーションを取りながら目的を共有して事業に取り組めたのではないかと思います。

協働事業の2年間で情報誌を発行し、アンケート調査を行った結果、団塊シニア世代が「きっかけを欲しがっている」ということがわかったことや、ダンカーズ倶楽部という当初予定していなかった団体が立ち上がったのも成果として十分評価できる。

これまでの2年間はチャレンジの要素も含んでいたため、今後の事業については、団塊シニア世代のセカンドデビューの方向性について十分に検討した上で、展開して行ってほしい。今後の活躍に期待したい。

長崎市提案型協働事業 平成 24 年度実施事業 評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	トムテのおもちゃ箱	担当課名	子育て支援課
事業名	地域のおもちゃ箱発掘事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	A
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
総括		B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

重要な地域課題に取り組み、お互いコミュニケーションを取りながら事業をすすめる協働のプロセスや、目標をしっかりクリアしていることなど非常に評価できる。

しかし、一方で行政の関わり方が薄いように感じられ、行政がもっと関わることで相乗効果はもっとあがるのではないかと考える。保育士や臨床心理士などの専門家に関わってもらうなど専門性を生かすことや、既存の子育て支援事業とコラボレーションすることで違った成果が出てくる可能性もあると思うので、再度、コーディネーターを入れた上で、団体、行政それぞれの役割などを協議する場を設けてほしい。

また、平成 23 年度の採択の際にもコメントとして出しているが、この事業を市の子育て施策としてどのように位置づけ、この事業で育った支援する側の人材をどのように活用していくのか十分に検討した上で 2 年目の協働事業に取り組んでいただきたい。今後の活躍を期待する。